

## 議事 1 バス路線退出意向申出について

## (1) 伊豆箱根バス株式会社 大場-函南線

## 運行事業者と町との協議状況について

(過年度までの状況)

単独継続困難路線申出が、県生活交通確保対策協議会に提出されましたが、町としては函南駅と大場駅を結ぶ路線であり、沿線には診療所・商業施設等が点在し、通勤・通学利用に加え、通院・買い物など生活交通の役割を担っているものとして、国庫補助による路線維持を求めてきました。

年月日	概要	その他
令和 2 年 1 月 17 日	単独継続困難申出路線として、令和元年度第 2 回公共交通会議において、本路線に対する協議を実施。	【公共交通会議意見】 路線沿線住民、診療所利用者、学生の交通手段として路線維持が必要。事業者申出にあるとおり国庫補助により運行継続を望む。
令和 3 年 1 月 26 日	単独継続困難申出路線として、令和 2 年度第 2 回公共交通会議において、本路線に対する協議を実施。	【公共交通会議意見】 路線沿線住民、診療所利用者、商業施設利用者の交通手段として路線維持が必要。事業者申出にもあるとおり国庫補助により運行の継続を望む。
令和 4 年 1 月 21 日	単独継続困難申出路線として、令和 3 年度第 2 回公共交通会議において、本路線に対する協議を実施。	【公共交通会議意見】 商店、医療施設への足、通勤・通学の足としての利用が多く、継続運行を求める。
令和 4 年 12 月 26 日	単独継続困難申出路線として、令和 4 年度第 2 回公共交通会議において、本路線に対する協議を実施。	【公共交通会議意見】 商店街、診療所、文化センター等への足、通勤・通学の足として継続運行を求める。

(本年度の状況)

5 月下旬に伊豆箱根バス株式会社から町宛に路線退出意向がある旨の協議依頼があり、事業者の意向を町が把握しました。

6 月下旬には事業者より住民（自治会役員等）に対する状況説明、8 月末までに町は住民への路線に対する意見照会を実施しました。

9 月下旬に町から伊豆箱根バス株式会社宛に、「大場函南線の路線存続に係る要望書」を住民意見とともに提出しましたが、利用者の減少、乗務員の不足などの社会情勢や事業者の置かれている状況から、9 月末に退出意向の申出が県生活交通確保対策協議会に対して提出されました。

年月日	概要	その他
令和 5 年 5 月 31 日	伊豆箱根バス株式会社より町宛の「大場函南線の路線退出についての協議の依頼」（5 月 26 日付文書）を受理	事業者による路線維持が困難であるため、退出を見据えた協議依頼
令和 5 年 6 月 29 日	路線退出により交通空白地域となる 4 地区の自治会役員等に向けて、事業者より状況の説明を実施。（役場大会議室）	【4 地区】 八ツ溝区、上沢区、 新幹線区、大竹区
令和 5 年 7 月 14 日	町から 4 地区の区長を通じて住民意見についてアンケートを依頼。（8 月末日㍻）	
令和 5 年 9 月 21 日	町長が伊豆箱根バス株式会社を訪問し、代表取締役宛「大場函南線の路線存続に係る要望書」と、住民意見を併せて提出。	【添付した住民意見】 101 件
令和 5 年 9 月 27 日	伊豆箱根バス株式会社代表取締役が町長を訪問。要望に対する回答書を提出、受理。	【回答要旨】 運行継続は不可
令和 5 年 9 月 28 日	伊豆箱根バス株式会社が路線退出意向申出を県生活交通確保対策協議会に提出、受理される。	
令和 5 年 10 月 13 日	県生活交通確保対策協議会が申出を公表。代替運行申出の募集を開始。（10 月 27 日㍻）	代替運行の申出は無かった。

令和 5 年 11 月 13 日	上沢区公民館において、4 地区住民と町の意見交換会を実施。	
令和 5 年 12 月 8 日	町と伊豆箱根バス株式会社による協議を実施。(町が想定している代替運行開始時期 9 月までの運行継続についての協議) 伊豆箱根バスは 3 月末をもって路線退出。 ⇒町は 4 月から代替運行手段に切替えをする。	9 月までの運行継続をする場合 ⇒存続している大場畑毛線を減便し、限られた本数を大場函南線に回すことになる。運行費用の補填も不可欠。 ⇒町として、他の路線に影響を及ぼすようならば継続依頼はできない。
令和 6 年 1 月 18 日	【地域公共交通会議】 路線退出について町事務局としては、社会情勢、事業者の置かれている状況から承諾せざるを得ない。 代替運行手段について審議。	【町代替運行手段案】 デマンドタクシー方式 1 日 8 往復

### 【その他 参考】

○住民意見…路線維持を望む。三島市自主運行バス「花のまち号」路線変更を望む。現在の運行ダイヤを見直してほしい。バスを小型化し路線維持を望む。退出は仕方がない。函南町拠点循環バスの路線変更を望む。コミュニティバス路線の新設を望む。町が方向性を示すべき。

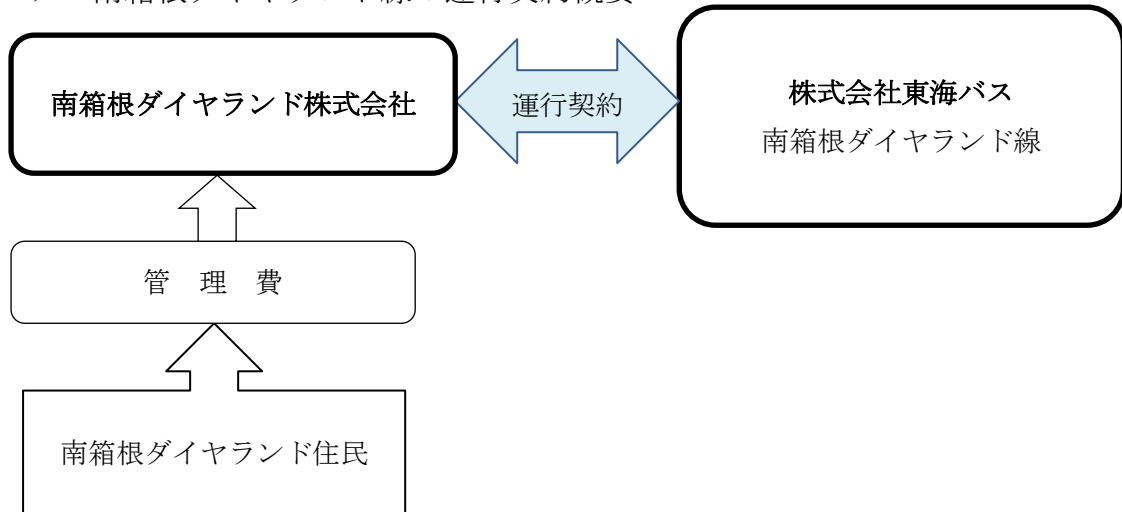
○三島市地域協働・安全課…「花のまち号」は市民要望を聞いたうえで決定した運行ルートで運行しており、函南駅方面への運行要望は無い。函南町の要望を受けての経路変更は検討できない。

○路線バス事業者…運転手が不足しており、新規路線の運行受託は不可。

○タクシー事業者…小型タクシーによるデマンド事業は可能。

## (2) 株式会社東海バス 南箱根ダイヤランド線

## ア 南箱根ダイヤランド線の運行契約概要



## イ 運行経路及び本数

サービスセンター⇒別荘分譲地内⇒函南駅⇒熱函商店街⇒函南駅⇒別荘分譲地内⇒サービスセンター⇒別荘地内…………

1 日あたり 6 便の運行（サービスセンターと函南駅間を 3 往復）

## ウ 路線退出申出に関する経緯

南箱根ダイヤランド株式会社と株式会社東海バスは、南箱根ダイヤランド線に関する運行契約を締結し、乗合バス路線の運行をしています。本年度に入り、バス運行に関する経常経費の増加に伴い、株式会社東海バスは運行契約金額について増額交渉を実施しています。

増額交渉がまとまらない状況となっているため、静岡県生活交通確保対策協議会に対して、株式会社東海バスは退出意向を申し出たものです。

## エ 当路線に関する過去の経緯

別荘分譲に際し、平成 27 年 10 月までシャトルバス（貸切バス）による送迎を南箱根ダイヤランド株式会社は行っていましたが、全国的な貸切バス運賃の適正化指導に伴い、運行委託金額を精査した結果、乗合路線バス化をすることで運行経費削減を図って運行しているものです。

乗合路線バス化をすることで、誰でも利用できるバスとなっています。運賃については、管理事務所契約者（回数券）と一般利用者とで区別しています。

また、市街地区間において、伊豆箱根バス株式会社の営業路線との重複がみられることから、事業者間の取り決めにより、株式会社東海バスの自由乗降については制限が加えられている状況です。

## オ 本案件に関する町としての考え方

南箱根ダイヤランド線については、発端が契約者送迎の貸切バスであり、費用面から乗合バスの形態をとっているものであり、南箱根ダイヤランド株式会社と東海バス株式会社による運行委託契約に基づく運行であるため、不介入の立場です。

静岡運輸支局からの助言により、3 者（南箱根ダイヤランド株式会社、株式会社東海バス、函南町）による協議を 11 月に実施しています。

当事者双方による運行契約が成立しないことが、株式会社東海バスに対して町が退出保留（退出時期延期）を求めるものにはならないと考えます。